

きっかけ

私は2019年の8月末から9月末までの1ヶ月間、オーストラリアのメルボルンにあるモナシユ大学に語学留学しました。1年次に一般教養で三隅先生の「国際交流の扉を拓く」というグローバル科目の講義を通して、留学生と関わったり異文化に触れたりすることにより海外への興味や関心が高まりました。自分の視野を広げ、新たな価値観に出会いたいと思いついて留学を決意しました。とはいっても英語力への自信はなく、不安を抱えたまま出発の日を迎えました。

留学で学んだこと

留学期間中はホームステイをしながら、平日は語学学校に通い休日は友達やルームメイトと観光地やショッピングへ出かけて過ごしました。語学学校での私のクラスは日本人と中国人が半分ずつぐらいのクラスでした。そのため、最初はなじむまで日本人は日本人同

オーストラリア・モナシユ大学 留学体験記

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年

野村 咲希 (のむら さき)



ホストマザーと



夜景



ルームメイトと友達と(筆者:中央)



クラスの人々と(筆者:左下)

士で話す、中国人は中国人同士で話す雰囲気がありとてもぎこちなかったです。次第に慣れてくると一部の日本人学生と中国人学生は休み時間に雑談をしたり、授業中もとても楽しそうにコミュニケーションをとっていました。しかし、私は彼らとなかなか打ち解けることができませんでした。渡航前にクラス分けテストを受験しているため、どの生徒も持っている英語能力は同程度のはずでした。私も一生懸命話しかけたのですが、中国人学生は理解しようにする姿勢を見せることなく、聞く耳を持つことさえしてくれませんでした。とても悲しかったし、悔しかったです。お互い母国語訛りがあるため、発音はとも聞き取りづらいのはわかります。それなのに、話せる学生は話せるのに私はうまくコミュニケーションが取れないのか。真剣に考えました。このままでは終われないと思いい、「帰国するまでに絶対に中国人学生とうまくコミュニケーションをとれるようになるのだ」という目標を立てました。まずは仲良くなることからだと思いい、

相手のいいところを見つけて褒めたり相手の国の文化や習慣を知ろうと質問してみたり、とにかく関わりを増やすことを意識しました。私が相手について知ろうという姿勢を見せると相手も少しずつ私に対して興味を示してくれるようになっていきました。お互いのことについてある程度知ることになると信頼関係ができます。これがコミュニケーションをスムーズにする上でとても大切だと感じました。当たり前のことではありますが、言語や異文化の壁があったからこそ身をもつてその大切さを実感しました。

どちらか一方が理解しようとしていても相手をその気にさせなければ意思疎通がうまくいかないことを学びました。今後社会に出て生きていくうえで、色々な人とコミュニケーションをとる場がたくさんあると思います。まずは自分が相手のことを知ろうとすること、そして相手に自分に興味を持つてもらえるようにすることを心掛けて、今回の学びを生かしていきたいと思いいます。